

# e ラーニング研究

第 10 号

サイバー大学



# 巻頭言

## オンライン教育の社会的浸透と学習体験の進化

2021年度秋学期を終えると、本学は開学からちょうど15周年を迎えることになる。すべての授業や試験をオンラインで提供できることを学習環境の特徴とし、かつ教育分野そのものも「IT総合学」という独自の複合的履修体系を推進してきた。前者については情報技術の飛躍的な革新と社会的浸透を背景に、格段に経済性が向上した様々なデジタル技術をオンライン教育にも大いに発揮できてきたことが大きい。また、後者においても、従来の情報工学系カリキュラムと経営学や商学系カリキュラムを併設しただけではなく、いわゆるリベラルアーツとしての教養や基礎学力、実務遂行能力の向上を図るリテラシー教育においても、ITの専門教育と同様に力を入れてきた。

この背景にあるのは、従来の縦割り型の学問体系を学部学科単位で指導するのではなく、様々な経済活動に貢献する社会の構成員としては、ITの利用に精通した上で、さらに様々な専門知識や技能が備わっていることが期待されるからである。

そこに新型コロナウイルスによる感染症が2020年初頭から世界的な蔓延に至り、3年越しの2021年12月現在も次から次へと出現する変異株によって継続的な脅威となっている。この一連のウイルスの感染の沈静化は、ワクチン接種の社会的浸透によって時間の問題となりつつあるものの、感染防止のためにインターネットへシフトされた多くの日常生活的な生活の営みや企業等による経済活動の一部は、自己管理を尊重する働き方や、それに伴う生産性の向上などの成功体験として恒久的に定着していくであろう。この新しい生活環境や習慣の変化は、すでにネット上にあった本学の学習環境と合致するものであり、つまりこれまではオンラインのみで授業に参加するという非日常的な知的活動は、日常の一部として同化され、社会的認知も進んでいくであろう。

もうひとつの流れは、全ての学習活動をこれまではオンデマンドでつつがなく実現することが、本学の「使命」であったことが、本来の目的である最善の教育効果を上げることこそが真の目的であるべきという認識である。その努力目標への過程において、本号でも報告されているように、双方向のコミュニケーションの活性が期待できる対面、あるいはリアルタイムでの学習活動も適用する体験が始まっている。

ITの利活用による学習機会の創出に加えて、今後は学習環境の柔軟性を以って、さらなる教育の質向上に努めるに留まらず、それに向けたさらなる技術革新や教育工学の研究を推進していかなければならない。

サイバー大学 学長 川原 洋

# 目 次

巻頭言：オンライン教育の社会的浸透と学習体験の進化

シングルボードコンピュータによる演習環境の構築 …………… 鈴木 秀男 ……… 1

eラーニングによる英語教育サービスの現状と課題の考察 ……………石巻 賢作 ……… 13

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と  
同期型オフィスアワーの試行 …………… 米山 あかね ……… 23

若年未就業者向けのキャリア支援への構成的グループ・エンカウターの  
試行的実践 …………… 小野 邦彦 ……… 39

「総合的な探究の時間」におけるデジタルツールの活用について …… 勝 眞一郎 ……… 47

対面とオンラインを併用したハイブリッド方式による講義  
および研究会の実践報告 …………… 石川 秀樹 ……… 53

サイバー大学におけるSDGsの取組み …………… 遠藤 孝治 ……… 59